



新羽中だより

令和4年12月16日(金)
12月号

横浜市立 新羽 中学校
☎542-1680 FAX 541-1038

『個性や持ち味を活かして』

校長 荻野 弘

秋もだいぶ深まってきた10月の終わり頃から立続けにうれしいニュースが私のもとへ舞い込んできました。それは「中学生人権作文コンテスト」の横浜市大会で横浜市長賞、横浜市教育長賞の受賞、さらにその作文が県大会に推薦されて県大会で最優秀賞、優秀賞（NHK横浜放送局長賞）「港北区選挙啓発キャッチフレーズコンテスト」で中学生の部銀賞、「中学生の税についての作文コンクール」で東京地方税理士会神奈川支部長賞、神奈川納税貯蓄組合連合会会長優良賞、卓球部の市大会第5位で県大会出場、市席書大会の入賞、横浜市体育活動優秀生徒の表彰、特殊詐欺に関する防犯啓発ポスターの最優秀賞、区美術科巡回作品展の入賞、「社会を明るくする運動」標語コンテストの入賞、新羽町連合町内会防犯部「若い芽（防犯作文）」の入賞、地域の空手チームの関東大会女子団体第3位など生徒のみなさんが様々な場面で興味をもって取り組んだり、自分の持ち味や特技を生かして力を発揮し、成果をあげてくれました。

私は教師の役目とは、「生徒のみなさんが安全で安心して学校に通える環境を整え、必要な資質・能力をしっかりと身に付け、そのうえで興味のある事や得意な事をさらに向上させ、力を発揮するための支援をすること」だと思っていますので、多くの生徒のみなさんが部活動や各種のコンクール・コンテストなど様々な事で活躍している様子を聞いて、とてもうれしく思います。

夏休みが終わり授業が再開した頃は、次の区切りになる12月の冬休みまではとても長く感じていましたが、過ぎてみればアツという間であり、あとわずかです。冬休みを迎えることになります。みなさんにとってこの4ヶ月の間の学校生活はどうだったでしょうか。学習面だけでなく、自分の好きな事や得意な事にも取り組み、充実した生活を送ることができたでしょうか。「表彰」という形で評価を受け、周囲から賞賛されることはとても素晴らしいことだと思いますが、それと同じように大切なことは、自分から取り組むことで自身が満足感や充実感を感じて、人生をポジティブに歩んでいくことではないでしょうか。自分の個性、興味、特技そして持ち味を活かして何かにチャレンジしてみてください。

最後に話は変わりますが、この2年間、本校は新羽小学校とともに「港北区人権教育実践推進校」として指定を受け、コロナ禍の影響で新羽小中合同での研修や区全体での取組など十分ではありませんでしたが、人権教育の充実に向けて取り組んできました。推進校2年目のまとめの年に、本校の生徒が人権作文コンテストで素晴らしい成果をあげてくれたことにとってもうれしく思います。本校の生徒たちの人権作文によせた思いを受け止め、さらに私たちの人権感覚を高めていきたいと考えます。2名の生徒の作文を載せさせていただきました。

わら蛇を新しくしていただきました！！

11月27日(木)に新羽小学校に「注連引き百万遍保存会」のみなさんが来校され、3年生が「わら蛇」づくりを体験しているところを校長、副校長で見学させていただきました。コロナ禍で中止が続いていたので3年ぶりに再会されました。江戸時代の中期、この地域に疫病が流行した時、旅の行者がわら蛇を作り、村の出入り口の三方のヒイラギの木にわら蛇を巻きつけ、御神酒を注ぎ、100万遍念仏を唱えると疫病から村人を守るとされ、続けられてきました。生徒達の登



校の生徒が人権作文コンテストで素晴らしい成果をあげてくれたことにとってもうれしく思っています。本校の生徒たちの人権作文によせた思いを受け止め、さらに私たちの人権感覚を高めていきたいと考えます。2名の生徒の作文を載せさせていただきました。

下校の安全や折からの新型コロナウイルス感染症の退散の願いを込めて、中学校の分も編んでいただき、校門付近に木に飾っていただきました。いつまでも生徒たちの安全で安心な生活を見守ってほしいと願っています。

【ホームページ掲載のため氏名はイニシャルにしています】

全国中学生人権作文コンテスト横浜市大会

横浜市長賞

『ぼくはスカート履いている』

2年2組 M. H

ぼくは制服のスカートを履いている。テストの時、合唱祭、高校見学でも。『ぼく』という一人称もしっかりこないで、早速だが『私』にする。なぜスカートなのかというと、涼しいし、かわいいからだ。ズボンは悪くないが、あつい。涼しくてかわいいのならば履く。いつからスカートを履くようになったかというと、小学五年生の時だ。英語教室の発表会で女の子役をやった。性別の問題に訴える目的もあった。英語の先生は母だ。本番後に隣のコンビニにスカートで行ってみたいと思い、母に聞いてみたらすんなり「いいよ。」と言われた。実はやめなさいと言われると思っていたからビックリした。それから安心して履きたいと言えるようになった。私は、見た目は『格好いい』より、『かわいい』と言われたい。これまでジャージが楽だと思っていた。ある日母が、女の子用のお店に連れて行ってから洋服を着るのが楽しくなった。姉もいつも「かわいい」とほめてくれる。昔から髪を伸ばしたかった。今は肩まであり、美容院では、女の子カットしてもらっている。美容師さんはすんなり受け入れてくれる。普段からオシャレに関わる日常を過ごしているからかなと思う。私には女の子のお友達も多い。男子からは変な意味にとられたこともあったけど、別に気にしていない。発達障害もあって、オープンにしているし、昔から色んな反応を受けてきた。いちいち気にしていたら生きていけない。ここまで読んでいただき、学校の校則はどうなってるのと思う人もいるだろう。私が入学する前、姉の友人が生徒会で、制服を変える活動をしていた。その時女子がズボンを履いても良くなった。先生方が、私のスカートを履きたいという要望を更に話し合ってください、ついに校則が変わった。『女子』『男子』の文字が削除。家族で感動した。母は泣いていた。携わってくれた先生は「いつか取り組まなければいけない問題なので、向き合えば。」と言ってくれた。また、そういう環境が当たり前だと思っている先生もいる。相談して本当に良かったと思う。みなさんに伝えたいのは、周りの人に言う大切さだ。私が、みんなにスカートや障害のことを言って良かったと思うのは、理解してくれる人がいることだ。しかも結構な人数。最近ではSDGsもあって、関わりを持とうとしている人も多くなり、言いやすくなっている。正直SDGsの中で障害を扱うことは「遅くない？」と思ったが、障害というものを知らない人も多かったので、みんなで考えることができるのでいい機会だ。小学校低学年の時は、私も友達なんていないと思っていたが、今は沢山の大切な友達、味方がいる。みんなには、本当の自分の事を言っていていいと思ってほしいし、言わないのは嘘をついて生きていくことになる。保護者や先生にも、私たちが言ってもいい人だと安心できる環境を作ってほしい。子供に嘘をつかせないでほしい。その子自身は、言おうとしている。子供でもヘルプの気持ちがある。ヘルプをオープンに。それをダメという事は、その子をいじめている。存在を否定している。

あるディズニー映画で「かくせ、感じるな、みんなに知らせるな。」という父親から娘に言い聞かせるシーンがあるがおかしい。誰が見ても、おかしいと思えるように書かれている。それと同じことはしないように、というメッセージだ。映画に感動するだけではなく、この世界にも向き合って私たちを守ってほしい。母曰く「HはH、障害を持っていることを隠したら、自分は隠すような恥ずかしい人間なんだと思ってしまう。他人に対して誰一人そんなことはしてはいけない。」今ではこれが私の考えにもなっている。私は障害を持つ身としてみんなと同じように接してほしい、特別扱いされたくない。スカートも特別ではない目で見てほしい。私と同じ思いをして、勇気を出して自分の事を話した人の事を沢山のの人に理解して



ほしい。私が障害を持っていなければずっと障害を知らなかったかもしれない。他の事も知らなかったかもしれない。同じ思いをしている人の役に立ちたいと思えるようになった。私の人生全ては、神様がくれたプレゼントだと思う。

横浜市教育長賞

『悲しい歴史を終わらせる』

3年2組 K. K

私は、最初この人権作文を「はやく書き終わらせたい」と思っていた。私は、何不自由なく幸せに生きてきたので人権問題について深く考えることが今までなかった。しかし、祖母からある病の人権問題について話を聞き、悲しい歴史と現状があることを知って、この人権問題を他人事で終わらせてはいけない、という事を身に染みて感じる事となった。その病の名は「ハンセン病」。ハンセン病とは、らい菌という細菌に感染して起こる病気で、かかると手足などの神経が麻痺し、汗が出なくなる、痛い、熱い、冷たいといった感覚がなくなる、失明、体の一部が変形してしまうなどの症状が現れる。また、治療法がない時代は障害などの後遺症が残ることもあった。しかし、らい菌は感染力が弱く、感染したとしても発病する力もとても弱い細菌であるため、感染率、発病率はとても低い。さらに、現在は治療法も確立していて、治療薬もある為、もし感染して発病したとしても、適切に治療すれば後遺症もなく治すことができる。今、この作文を読んでいるあなたは「ハンセン病」にどんな印象を持っただろうか。持った印象は、人それぞれ違って当然だと思うがこの文の説明からだ「ハンセン病は、感染力が強く恐ろしい病気」という印象を持った人はいないと思う。しかし、かつての国の誤った政策により、人々はハンセン病に誤った印象を強く持ち、「ハンセン病は、感染力が強く、恐ろしい病気」と誤解されてきた。その誤解によってハンセン病患者、元患者とその家族の方々は、酷い差別と偏見に苦しめられてきた。ハンセン病にはそんな悲しい歴史がある。しかし、この悲しい歴史はまだ終わっていない。今でもまだ、ハンセン病患者、元患者とその家族の方々に対する差別と偏見が根深く続いているという悲しい現状がある。

しかし、なぜ今でも根深く差別と偏見が続いてしまっているのだろうか。その原因には、当時から変わらない私たち人間の考え方が関係しているのではないかと考えた。誰もが一度は体験したことがあると思う。それは、人から聞いた事を鵜呑みにし、事実か分からない事を真実を知ろうとせずに人に伝えてしまう事。また、自分が人に何かを伝える時に元の事柄に手を加えたり、誇張してしまったりする事。そして、最初についた印象は中々変える事が出来ず、その印象が全てだと誤解し、その誤解はやがて常識化されてしまう事。もちろん、そうでない人もいると思う。しかし、このような人は決して少ないとはいえない。私も、このような体験を何度もしたことがある。例えば、「あの子って、こんな悪い子なんだよ！」と聞いて、話を聞いただけに勝手に「悪い子」と誤解をし嫌な印象を持ってしまったり、友達と一緒に噂話をしてしまったり、見たものを一瞬で判断し印象付けてしまう事もあった。しかし、一歩間違えるとハンセン病人権問題のように差別と偏見に苦しむ人が出てしまう事になる。

私には、幼稚園の頃から仲の良い大事な友達があった。その子は、生まれつきアトピーがあった。また、アレルギーがとても多く体も弱かった。その為、休む日が多く、学校でも私以外とはあまり交流がなかった。その子が体調不良で一週間休んで久しぶりに学校に来てくれた日の事だった。ある一人の男の子が「あいつの体なんか赤いボツボツやばくね」と言い出した。その日は冬だった為、乾燥でアトピーが悪化している時だった。すると、周りの子たちまでどんどん言いたい事を言い出した。「なんかの病気なんじゃない？」という一人の女の子の言葉によってさらに事態は悪化した。みんなの認識が「病気」となってしまったのだ。「うつるから逃げろ！」とみんなが言っていた。その時に私は、その子のそばにいてだけで何も出来なかった事を今でもとても悔やんでいる。その子の心に負った傷は計り知れない。私は、誤解を解く為担任の先生に相談をし、クラスみんなに説明をしてもらった。説明をしてもらっても、すぐに誤解は解けなかった。しかし、時間が経過すると共にその誤解は解け、今までの事を謝ってくれる子も出てきた。そして、みんながアトピーの事をしっかり理解し受け入れてくれるようになり、今までとは違い私以外の子どもとも交流を持てるようになり友達も沢山出来るようになった。このような体験から私は、一人ひとりが違いを受け入れ理解をし、誤った事実を真実にし、誤解を解く事で悲しい歴史と現状を終わらせる事を知った。悲しい歴史と現状を終わらせる為に私たちは、人から聞いた事を鵜呑みにするのではなく一度立ち止まって考え、理解を深め真実を知る事。自分が何かを発信したり伝える時には誤りがないか十

分注意し再確認する事、最初の印象を全てだと誤解しない事を大事にし、人を受け入れていかなければならない。

表彰 栄光を講える！！

★全国中学生人権作文コンテスト

横浜市大会横浜市長賞 神奈川県大会最優秀賞 M. Hさん(2-2)

横浜市大会市教育長賞 神奈川県大会優秀賞 (NHK 横浜放送局長賞)

K. Kさん(3-2)

校内審査入選作品

S. Yさん(3-1) S. Tさん(3-1) S. N(3-1)

F. Aさん(3-3) G. Kさん(2-1) H. Wさん(2-2)

Y. Rさん(2-3) Y. Tさん(1-1) Y. Rさん(1-1)

Y. Aさん(1-2) U. Sさん(1-3)

★横浜市体育活動優秀生徒 男子 S. Aさん(3-2)

女子 F. Mさん(3-2)

★港北区選挙啓発キャッチフレーズコンテスト

中学生の部 銀賞 I. Sさん(2-2)

★中学生の「税についての作文」

東京地方税理士会神奈川支部長賞 M. Nさん(3-2)

神奈川納税貯蓄組合連合会会長優良賞 O. Mさん(3-1)

★横浜市中学校席書大会

硬筆の部 優秀賞

K. Kさん(3-2) O. Mさん(3-2) F. Aさん(3-3)

M. Fさん(3-3) T. N(1-1) N. Sさん(1-2)

S. Sさん(1-3)

毛筆の部 佳作 O. Mさん(3-1)

★港北区巡回美術科作品展入選者

S. Yさん(3-1) S. Aさん(3-2) S. Mさん(3-2)

N. Mさん(3-2) U. Iさん(3-3) O. Rさん(3-3)

M. Yさん(3-3) Y. Fさん(3-3)

★特殊詐欺に関する防犯啓発ポスター 最優秀賞 O. Yさん(1-1)

★第72回港北区「社会を明るくする運動」標語コンクール入選者

T. Rさん(1-2) T. Yさん(1-2) F. Rさん(2-2)

O. Mさん(3-1) S. Yさん(3-3)

★新羽地区連合町内会防犯部 防犯作文「若い芽」入選作品

最優秀賞 O. Mさん(3-2) 優秀賞 O. Mさん(3-1)

佳作 N. Rさん(3-3) N. Mさん(3-2) U. Kさん(3-2)

S. Mさん(1-3)

★卓球部 横浜市中学校秋季卓球大会 女子団体の部 第5位 神奈川県大会出場

★第25回関東中学生空手道選手権大会 組手の部 女子団体 第3位

今後の予定

12月23日(金) 年内前授業最終日

12月24日(土)～1月9日(月) 冬季休業

(12/27, 28 1/4, 5は学校閉庁日)

1月10日(火) 年明け授業開始日